

## 2023年度男女共同参画センターはあもにい

### 第1回運営審議会 議事録

1. 2023年7月11日(火)10:00～12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
  - ◆ 運営審議会委員(10名 五十音順)  
阿部広美委員 井手志保委員 岩永秀則委員 小野由里委員 北村眞理子委員  
阪本恵子委員 本田恵介委員 松本充右委員 宮村飛伸委員 森紀子委員
  - ◆ オブザーバー  
熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課 課長 上村奈津子、主査 内田加奈子
  - ◆ 事務局
    - ・代表企業A 尾池千佳子(九州総合サービス株式会社 代表取締役)  
欠席:太田勇雄(九州総合サービス株式会社 取締役部長)
    - ・構成企業B 内尾淳(熊本産業文化振興株式会社 常務取締役)  
河野正治(熊本産業文化振興株式会社 事務局次長)
    - ・構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミュージズプランニング 代表取締役)  
館長:吉田稀世  
副館長(兼 総務管理課課長):田中誠一  
舞台事業課:課長 安藤陽介  
維持管理課:課長 寺本祐矢  
企画事業課:課長 田中美帆、主任 山口美和、岡田佳子、宮脇利充、鈴木与施子  
総務管理課:島浦萌
4. 会次第及び議事内容
  - (1) 代表あいさつ(はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)
  - (2) 館長あいさつ(館長 吉田稀世)
  - (3) 審議会委員および出席者紹介
  - (4) 審議
    - 議題1 はあもにい管理運営状況について
      - ・会館運営状況報告
      - ・質疑応答
    - 議題2 令和4年度実施事業について
    - 議題3 令和5年度事業方針、事業計画について

・質疑応答

5. 特記事項

議事録の署名に関しては、北村委員、宮村委員が推薦され、議会承認となった。

会長、副会長選出に関しては立候補または委員からの推薦となる。

松本委員が会長に推薦され、満場一致のうえ承認。

井手委員が副会長に推薦され、満場一致のうえ承認。

6. 議事録

議事進行:松本委員

● 議題1 質疑応答・審議

---

(北村委員)

先日、久しぶりに黒髪校区ミニ集会でメインホールを利用した。階段を上った先にあるホワイエが本来の受付になるだろうが、足の不自由な方は上まであがるのは大変だった。事前に確認すればよかったが、その場合は1階の横の入り口を使えるか。また、1階にも受付を作ることができるか。

(事務局 事業課安藤)

車椅子や高齢の方のために1階の横の入り口も使うことは可能。両方を受付にする場合もある。主催者には事前に伝えるようにしている。相談いただければ対応できる。

(本田委員)

利用率について、P6 幼児室利用はコロナ前に比べると全体的な利用者数が下げ止まっているように思われるが、要因は何か考えられるのか？ 今後利用を増やすために取り組みをする予定があるのか？

P11 洋式トイレを増やしてもらいたいとあるが、今後改修の予定があれば教えて欲しい。

(事務局 副館長田中)

幼児室の利用対象が主催事業、講座、はあもにい支援グループの主催者、参加者が利用できる。講座回数、頻度（コロナ以前は20回などの連続講座もあった）が減っていることも要因。幼児室の利用はサンライフとの連携も視野に利用者数を増やすことができないか、熊本市男女共同参画課に相談している。

トイレは、全体35個のうち、洋式が15個、和式が20個。要望が多いウォシュレットは13個しかない。トイレは大規模工事となり、期間がかかるため、熊本市男女課と相談しながら、今後予定されている大規模工事の際に改修できるのではないかと考えている。

(松本委員)

ジェンダーレストイレなどはあるのか？

(事務局 副館長田中)

多目的トイレは設置しているが、1階にしかない。4階の利用者で、多目的トイレを使いたい場合は1階まで降りなくてはならない現状。

(森委員)

情報資料室について、熊本市の図書館ネットワークで検索すればこちらに蔵書があるかどうかを確認できるか。探したい図書を見つけられなかったことがある。

(事務局 館長吉田)

熊本市の図書ネットワークに入っている。検索に引っかからない場合は、当館に蔵書がなかったと思われる。

(森委員)

個人で購入するのが難しい図書、女性の権利獲得の歴史資料など、値段が高い本などをぜひそろえていただいて、市民が活用できるようにしてもらいたい。

(小野委員)

幼児室利用について、対象年齢が1歳半～未就学児となっているが、下の子を預けて上の子と触れ合うワークショップなどで、一番預けたい年齢である1歳半以下を預けられない。また小学校低学年はまだ一人で留守番できないため、低学年の受け入れもあればよい。託児年齢の幅が広がれば利用者数の増加につながるのではないか。

トイレも小さい子連れで使用しづらい。はあもには子育て層が利用するにはハードルが高い。おむつ替えベッドもそれほど多くない。個室に子どもが座れるイスのようなものがフロアごとに最低1つでも設置してもらいたい。男性トイレにもおむつ替えベッドが欲しい。

(事務局 館長吉田)

託児年齢に関してはこれまでも要望があるが、対応するスタッフの準備や外部との連携もふまえて、市とも協議しながら対応していきたい。小学生の預け入れも要望が多い。すぐには対応はできないが、どんなことができるのか、ボランティアの協力を募るなど検討をすすめていきたい。

(事務局 副館長田中)

小さい子を連れたのトイレについては、最近も利用者からそうした声があった。内部で検討し、準備できること、管理方法も含め検討したい。

(宮村委員)

アンケートはとても参考になるが、500件は7万人の利用に対して少ない。どのようなアンケート方式にしているのか。また、どのような方が利用されているか、属性を知るため職業欄なども追加したらどうか。

(事務局 副館長田中)

アンケートのとり方は、期間を限定し、貸室利用の代表者に受付にて用紙を渡している。

他、1階ロビーにアンケート用紙と回収箱を設置している。

(宮村委員)

紙ベースのアンケート様式だと急いで帰る方などは書けないと思うので、フォームなどオンラインで回収するのは難しいか。

(事務局 副館長田中)

今後、検討したい。

(松本委員)

大学でもスマホだと気軽に回答してもらえている。検討してもらいたい。職業欄については追加できるか？

(事務局 副館長田中)

今後欄を設けるように検討したい。

(本田委員)

県立劇場では年に1~2回、劇場がとるアンケートとは別に、県の担当が直接来場者にアンケートをとっていた。はあもにいのアンケートは主催者(貸室予約者)が対象となっていると思うので、各参加者の意見は拾えてないと思う。設置者と指定管理者では知りたいことが必ずしも一致するとは限らないので、市の主管課と共同体間で協議しながら違った角度でアンケートをとることが年に1回でもあればいいのかと思う。

(阿部委員)

幼児室の利用で、支援グループの話があったが、どこかで公募しているのか。どういう人が対象になるのか。

(事務局 企画事業課田中)

はあもにいには男女共同参画社会を推進する活動をしている団体を支援する制度がある。そのグループが会館内で活動する時は託児を利用できる。現在、支援グループは年間を通して募集している。発足3年未満でこれから活動をしていくグループがあればぜひご紹介ください。

(阿部委員)

託児の話があったが、聞くだけの講座などで、サテライト会場を作るなど親子で一緒に聞けるように考えたらどうだろうか。森都心プラザだと裏にそのようなスペースもある。

(事務局 企画事業課田中)

講座の内容にもよるかと思うが、再就職支援講座などは、対面とzoomとハイブリッドの受講も対応した。対象が育休中の母親などの講座の場合は、外部の事業所にも依頼し、6カ月からの託児に対応する場合もある。

(阪本委員)

P8アンケートで、来館者数が多いのが50代、60代、70代ということだが、講座での利

用なのか、貸室利用者なのかどちらが多いのか？

(事務局 副館長田中)

そこまでの分析はできていない。次回は答えられるようにしていきたい。

(松本委員)

利用者の属性まで分析できたら尚いいと思う。

(岩永委員)

P8 アンケートの駐車場について、平日より週末の利用が多いか？ 昨年 10 月に利用した時、有料駐車場に停められなかった。無料の場所は遠く、子連れ、年配の方にはきついと思う。有料駐車場を立体にするなどはできないのか。また、10～20 分の利用で 200 円は高いと感じる。最初の 30 分は無料なども検討してもらいたい。

(事務局 副館長田中)

有料が 70 台、無料が 116 台ある。週末など催事が入っていると有料はすぐに満車になる。立体駐車場などについては、大規模改修時に提案していきたいと考えている。

(井手委員)

アンケートはネットで回収できるグーグルフォームなどを利用されたらいいと思う。来館・利用後のお礼メールにアンケートフォームのリンクをつけるなど検討してはどうか。年齢構成、属性についてだが、年齢層の高い人たちが利用しているようだ。男女共同参画、女性支援の観点から、子育て世代、シングルマザーのためにも施設を充実させていけば 20 代～40 代の若い世代の利用が増えるのではないか。

## ● 議題 2, 3 質疑応答・審議

(宮村委員)

男性対象の講座について、前回の男性の生き方講座で元プロ野球選手と考える第二の人生の講座は 10 名と少なく残念だと思った。今回のメンズカレッジのチラシはハードルを低くできるような企画、デザインになっているが、チラシの中に「熊本の男たち、ちょっとここは変えた方がいいんじゃないか」と怒られそうな印象の文言がある。来る人にとってどうかなと思った。

公共の施設なので多様性が大事だと思う。私は息子が二人いるが、サービス業で土日参加は難しい。平日に子どもと参加できるイベントがあるかを探すが、参加できるものがない。先ほどアンケートに職業を聞いて欲しいと言ったのは、会社員特にサービス業は参加できていないのではないかと思う。これは問題だと思っている。間口を広げて公共性のあるイベントを考えて欲しい。

(事務局 企画事業課田中)

講座の日時は平日、週末、夜など時間帯について毎回検討している。

子どもとの参加となると週末に設定することが多くなってしまいます。今回の夏休みのイベントも講師の都合で日曜日になってしまったが、次年度は意見をもとに検討したい。

(井手委員)

P18 再就職支援講座だが、これは年間で1回なのか。

(事務局 企画事業課田中)

年間の事業数が多く、連続講座が難しいが、今年度は担当とも話しながら、最低でも2回は必要かと考えている。

(井手委員)

P21 の働き方相談所もあるようだが、再就職準備講座を年に何回かでも入れてもらって、ハローワークにつなげる流れを作ってもらいたい。

(阿部委員)

P17DV 加害者更生プログラムだが、裁判所から保護命令が出た人に案内するなどの働きかけをしたことはあるか？県の審議会でも提案したことがあり、その際は県が動いて裁判所から案内をしてもらうことができた。そのことも検討していただきたい。

ママのためのお仕事準備講座など、働く側の講座は充実しているように思うが、受け入れる側（企業）への講座、子育て中の女性の雇用やワークルールについて、雇用側の意識改革を促すような講座も取り入れてもらいたい。

(事務局 企画事業課田中)

新しい視点だと思う。検討材料とさせていただきたい。

(小野委員)

メンズカレッジについてだが、私たちの団体でもフェアトレードなどのイベントをするが、それを前面に出したイベントをするとそれに来る人はすでにそのことに興味がある人。しかし、本当は来て欲しい、知って欲しいのはそのことに興味がない人である。特に男性や親子向け講座など、本当に伝えたいこと（講座目的）は裏に隠しつつ、他のこと（工作など）をメインにして興味を持ってもらうようなしかけを作れば参加人数も増えていくのではないかと思う。

(事務局 企画事業課田中)

今年度計画している「父子でクリスマス寄せ植え体験」は講師自身も夫婦の在り方など、夫の家事参画を促すことを啓発している方。表向きは寄せ植えのワークショップだが裏のテーマで男女共同参画について学んでもらいたい目論見の講座である。SDGs de カードゲーム講座も、父子で一緒に夏休みの自由研究のタネを探そうというのを前面に出しているが、母親が関わることが多い宿題に、父親の育児参画を促す裏テーマがある。また、父親にも子どもと遊びながらSDGs、ジェンダー平等についても学んでもらいたい。メンズカレッジに関しては、内部でも「メンズカレッジ」という言葉は固いかなどいろんな意見

が出ている。皆さんの意見も聞きながらブラッシュアップしていきたい。

(北村委員)

昨年、両立支援講座をはあもにいと一緒に園の父子対象に行った。子育て中の父親が子どもとの愛着関係を築く時期に、たくさんの楽しい思い出を作ることが大事だと考えている。同じ思いで講座を開催できて感謝だった。その時のアンケートも「とても満足した」が多かった。項目には、「はあもにいを利用したことがあるか」「職業についてのチェック欄」など細やかにヒアリングしている講座もあるようだ。アンケートの収集目的、意図の説明も丁寧だった。ネットのフォームでのアンケート回収に協力を依頼したら、あっという間にアンケートが出そろった。今後もこのような丁寧な対応をお願いしたい。

アンケートに答えた父親のうち、はあもにいを利用したことがないのが 6~7 割だった。私たちもはあもにいの存在を丁寧に説明していく必要があると思う。また、いろんな団体との協力体制がますます必要となってくる。黒髪校区子育てネットワークの会というのがあり、いろんな団体と、民生委員からなっている会だが、中央区役所保健福祉部保健子ども課地域健康班の方が来て一緒にやっている。そういうところでもはあもにいとタイアップができたらいいと思う。以前あったような、地域の声を聞く会を復活して、直接的な意見を出す機会を作ってもらいたい。

(事務局 企画事業課田中)

昨年度、第一幼稚園と連携で父子講座を行った。審議会の中で連携できればという声があり、早速連携した。

アンケートに関してだが、事業概要の P48 に講座アンケートの集計結果を載せている。会館アンケートと講座アンケートを別々にとらえていた。来館者から 551 人聞いていて、講座参加者からも 558 人聞いている。講座アンケートでは職業も聞いている。また、QRコードも付けてネットからも答えられるようにしている。今後は会館アンケートと講座アンケートを紐づけてより良いアンケート集計にしていきたい。

また、皆さんからの提案や連携の声は大変ありがたい。ぜひ連携できる場所があれば教えてもらいたい。